

# Amanita muscaria

## (紅天狗茸)

### Drug Facts

#### 有効成分

ムッシモール  
イボテン酸

#### 分類

せん妄、サイケデリック

#### 使用上の注意

- 個体や採取時期、地域により強さにバラツキがあるため、はじめて服用する際は、中サイズのキノコひとつを限度とする。
- 効果が感じられるまで、2-3時間かかる場合がある。むやみに追加しないこと。
- 大量服用すると、解離やせん妄、昏睡状態におちいる。介護人必須。
- タマゴテングタケ(Amanita phalloides)、シロタマゴテングタケ(Amanita verna)など、テングタケ属のキノコには、食べると死にいたる猛毒の種が存在する。素人が採取する際は十分に注意。

#### 用法・用量

■ 経口：よく乾燥させ、空腹時に服用する。お茶やスープに入れたり、そのまま食べる。調理する場合は、沸騰させず弱火で。または、粉末にしてカプセルにつめて飲む。乾燥重量で、ライト1-5g(中サイズのカサ1個)、ミディアム5-10g(1-3個)、ストロング10-30g(2-6個)。30分から2時間で効果が現れる(平均約1時間半)。作用持続時間5-10時間(平均6-8時間)。ピーク1-2時間。■ 喫煙：カサの表皮を喫煙。用量は約2センチ四方。大麻などと混ぜると喉にやさしい。

#### 効果

身体をリラックスさせ、眠りに誘う。鮮やかな夢を見たり、物体の大小が変化したりする。饒舌になったり、力がわいて、活動的になるという報告もあれば、あまり効果が感じられないという人もいる。

- 身体：リラックス、眠気、鎮痛、ふらつき、注意力低下、視聴覚の変容、幻覚、共感覚
- 精神：多幸感、人生の啓示、内省、ひらめき、予知、明晰夢、体外離脱感
- 大量服用では、解離やせん妄、興奮、回復後の健忘がみられる。 ■ 喫煙の場合、効果はすぐに現れ、持続時間は短い。

#### 副作用

筋肉のけいれん、めまい、吐き気、胃の不快感、悪寒、発汗、唾液の過剰分泌

#### 保管

乾燥を適切に行えば、最低1年は成分劣化しない(3ヶ月目から劣化がはじまるという説もある)。乾燥剤を入れた容器に密閉して保存する。小児や未成年の手の届かないところに保管を。

#### 生態

■ ヨーロッパ全土、北アジア、アラスカで夏から秋に見られる。シラカバ、カラマツ、モミ、マツ、オークなどの木の下や、切り株のそばに生える。カサは8-20センチ、高さ5-20センチ。栽培はほぼ不可能。 ■ 黄色や灰褐色のカサのアマニタ・パンセリナ(テングタケ)も、アマニタムスカリアと同様の向精神性作用をもつが、バッドトリップの報告例が多い。

#### 薬理

ムッシモールは10-15mgから効果をあらわし、神経伝達物質GABAの働きを阻害する。イボテン酸は50-100mgで有効、グルタミン酸受容体を興奮させる。イボテン酸は乾燥の過程で脱炭素化反応を起こし、より安定した有効成分ムッシモールに変化する。少量含まれるムスカリンは、発汗、唾液分泌などの副作用を起こす。

#### 特徴・その他

- うまく乾燥させれば、イボテン酸がムッシモールに変化し、吐き気などの副作用が軽減する上、効果は5-6倍に増加する。
- 全部位に効果があるが、表皮と、その下の黄色い層がもっとも強い。
- 吐き気をおさえるには、大麻の喫煙が効果的。 ■ 身体的、精神的依存性は認められない
- シーズンの初期に採取されたキノコはより強力だという説がある。
- 日本では鍋に入れたり、塩漬けにして食べる地域がある。 ■ 活性成分は尿に排出される。シベリアでは、この尿を飲み、副作用のない強力な効果を得ていたらしい。
- 極度の興奮症状には、最後の手段としてベンゾジアゼピン系抗不安薬(セルシン、ワイパックスなど)を用いる。



This product is a creation of god.

2008 www.entheo.org